

四、人類救援と生命の光

人間 U・F・O

いま世間では空を飛ぶ円盤の正体を知らずに騒いでいる。いま、まさに世界は円盤が実在しているかいないかの論争よりも、円盤と交信しようとする公的機関や、アメリカ国会でもU・F・Oに関する聴聞会を開くまでになっている。(一九七〇年)

果たして、U・F・Oの正体は何であろうか？

人々は空を飛ぶ円盤の正体を掴めずにいる。その円盤こそは、まさに天の人々、義人たちの分身体であり、義人たちが乗り回している飛行体であるということは、誰も知らないことである。

人間が人の限界を超えて完全に神の血となれば、その身が変わり計り知れない神の光源体となるのである。その光は恐ろしい中性子の光球だが、それは生命光線ではあるが、それを億万分の一でも露出させれば、生命体はその威力に耐え切れずに死んでしまうのである。

そこで、義人たちがその光源体で動くときには、その光度を億千万分の一に割って、また割り、小さく縮小した光度の光で空間を飛ぶのである。

それを見た人々は、いわゆる空飛ぶ円盤だと称しているが、それが義人たちの身体ということは夢にも思っていないのである。その円盤からは光を発しているが、その光には影がなく、壁でも突き刺す威力を持っているのである。その光こそ、まさに中性子の光であるからである。

韓国から「勝利者」が誕生するや、いま天が祝福し、地が踊っているのである。これを人間だけが知らずにいるのである。

「勝利者」には暁の星を授けるとし

た。ヨハネ黙示録に寄れば、暁星は、まさに「勝利者」を象徴する星である。

いま、暁星がだんだん光を発しながら明るくなっている。これから暁星はだんだん大きくなってくる。暁星が余りにも燦爛とひかり光彩が大きく広がるので、あちこちで、この驚くべき現象に対し大きく報道される日があるだろう。一九八七年当時、アメリカの天文学者たちがこのような現象に疑問を提起しており、脅威の目で注目していった。

いま、世界の至るところでは、「勝利者」を証明する驚くべきことが起きているのである。サウジアラビアのイスラム教の聖地メッカにある泉では、メシアが現れるときにおけるといわれる奇跡が起きているのである。いま、その泉では黒石が白く変わりつつあるのだ。これは何を意味しているのだろうか？

イスラム教の最高聖地に神殿が建っているが、その神殿の泉にある石が白くなるときはメシアが出現すると、かれらは数千年間も待ち望んできたのである。それで、イスラム人たちはいま救世主が、どこかに現れているということを知っているのである。これから、その石がもっと白く変わるはずである。

2、聖書の正しい解き方

聖書は神の御言葉であるので神の立場で見なければならぬ。

1)、聖書は霊的な記録

聖書は人間の心を表現して記録したもので、即ち、霊的な記録であり、心の記録である。従って、聖書全体が全

て人間の心を描いた言葉である。涙の谷(詩篇84：6)も、人間の心を述べたのであり、砂漠、荒野、盲人、聾、哑、流れる川等、すべてが人間の心を表現したものである。

また、善悪果も心であり、「ノルマゲドン戦争」も心の戦争を述べたのもであり、「生命の書」(ヨハネ黙示録17：8)、「生命水」(ヨハネ黙示録21：6)、「生命の木」(創世記2：9)、「隠されていたマナー」(ヨハネ黙示録2：17)なども、全てが人間の心を表現したものである。

従って、「新しい天と新しい地」(ヨハネ黙示録21：1)も心であり、「混沌」も心である。「天の国」も心であり、「地獄」も心である。だから、サタンは地獄の心であり、神は天国の心である。

聖書は人間の心に関して、“このころのまずしい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。…心の清い人たちは、幸である、彼らは神を見るであろう”と言っている。

心が貧しいということは空の心を指しており、心の清いということは慈心に汚れていない心を指しているのである。「心の清い者は、天国は彼らのもの」と言っているが、この言葉は、慈心がなければ、その心が即ち天国だということである。

このように、聖書全体が人間の心を指して言っているのである。

聖書を根本的に理解するには、まず、罪とは何か、義とは何かを明確に知らなければならぬ。聖書全体は霊の言葉であり、霊の言葉であるから人間の心を描いた言葉なのである。

従って、罪も心であり、義も心である。罪とは何か、心は心だが、悪の心が罪であり、罪は慈心から生まれると述べられている。悪の心は即ち、慈心

の心であり、慈心の霊は罪の霊で、罪の霊は死亡の霊だから、死亡の霊が即ち、魔鬼(悪魔)で、魔鬼自体が罪だということが、聖書でいうところの最も核心的な教えである。

であるから、罪と慈心、悪の心と魔鬼は各々、別個の存在ではなく、罪=慈心=悪心=魔鬼=死亡と、ひっくるめて一つになるのである。

このように罪だけが霊でなく、天国も霊であり、地獄も霊であるから、本当は神も心であるのだ。だとすれば、神が心であるということが、どこに書いてあるかといえば、“天国はここにあり、あそこにあるとは言えぬ、汝の中にある”と述べてあるし、“神のいるところいずこないりや、天である”と言っているから、神は人間の心を除いて、ここにいる、あそこにいるなどということを見ることができない。従って、混ざりなかれ、と明白に釘を刺しているのである。

このように強く神御自身が、人間の心の中にいると書いてあるにも拘わらず、人間の目が悪魔に幻惑されていたので、聖書の文脈を正しく解釈してくれる者がいなかったのだ。聖書には相対的に矛盾する言葉が混ざっているので、その文脈を掴められなかったのである。

2)、組み合ってこそ真理

聖書は組み合わせて見なければならず、組み合わせなければ真理とは言えない。組み合わせことは理に合うことであり、理にかなうことが真理である、ということは当然である。“あなたがたは主の書をつまびらかにたずねて、これを読め。これらのものは一つも欠けることなく”(イザヤ書34：16)

聖書には聖なる神様が嗣げる言葉

と、サタン魔鬼(悪魔)が述べた言葉がある。天国があるかと思えば、地獄があり、生命の果実があるかと思えば、善悪果がある。生命の御言葉があるし、死亡の話がある。聖書には善だけ記録しているだけでなく、悪も記録されているからである。もし、聖書に神の御言葉のみ書いていたなら、聖書を幾通りも解釈し研究する必要すらないはずである。

ところが、聖書の一句節を解釈するにも数百の意見があるということは、神の言葉と魔鬼の言葉が混沌と混ざっているからである。

だが、組み合わせてみればみるほど、神の言葉は神の言葉として一つにまとまっており、悪魔の言葉は、悪魔の言葉として一つにまとまっている、ことを見ることができ。従って、混ざっている神と悪魔の言葉を額面通り理解しようとすれば、すぐ矛盾にぶつかり、その矛盾をそれらしく合理化し埋め合わすとき、その解釈者は重大な誤解を犯すことになる。

聖書は人間の知恵で判断し勝手に解釈することができるものではない。無学で心の定まらない者たちは、他の聖典についてもしているように、“無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。”(ペテロの第二の手紙3：16)このように、人間の考えと判断ではむしろ、引かかって倒れるだろうし、ひたすら天の神のみが解くことができるものである。そして、聖書はひたすら聖霊が教えることができるからである。

聖書は神のみ言葉であり、神の子達に対する言葉であるから、神の立場で聖書を学ぶことであり、罪人の立場で聖書を見たら解けないようになって

いる。だから、よく聖書を二、三ページ

だけ読んでも頭が痛いというのである。聖書自体が前後が合わない部分が多く、それを棒読みしては理解しにくいからである。

聖書を正しく解釈するためには神の事情を正しく知らなければならず、神の神髄がわかれば矛盾だらけの句節句節がすらすらと解けるようになっているのである。

信仰に対して

世の神学者たちは聖書を肉的に解釈し、とんでもない想像だけを膨らませているのである。例えば、“もし、芥子種一粒ほどの信仰があるなら、この山に向かって、彼処に移れと言えば移るであろう。”(マタイによる福音書17：20)この句節を物理的に解釈するため、まるでイエスとだけ固く信ずれば「クリ・ゲラー」の如き超能力で此処の山を“彼処に移れ”と命令さえすれば山が移るものと思っているのである。

或いは“信仰さえあれば山をも移すほどの能力が生ずる意”この程度に理解するのである。これなどは、“山”をこの世の山として把握しているから生じた誤りである。

ここで言う山とは霊的な山、即ち、心の山を指しているのであり、心の山とは、心の中にある泰山の如き罪惡の山のことを言っているのである。

人間の心の中で最も高いものが、まさに“我”という意識だが、“我”という主体霊が思考の天辺にたつて、人間の考えを左右し調整しているのである。

だから、信仰さえあれば、芥子種ほどの信仰さえあれば、心の山、即ち“我”という意識を動かし彼処に移すと言ったのであり、信仰(神の恩恵)により“我”という罪惡の山が除去され、泰山の如き神の恩恵に変貌するということを行ったのである。*

次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

삼년공부 무문도통(三年工夫 無文道通)이나라

격암유록 新 해설
수정판 제 16회

未運論(말운론)

白馬神將出世時 백마신장 출세시
赤火蛇龍林出運 적화사용림출운
十處十勝非別地 십처십승비별지
吉莫吉於弓弓村 길막길어궁궁촌
勝者出入人人從 승자출입인인중
有智者世思勿慮 유자지세사물려
中入生中入何時 중입생중입하시
午未申酉 오미신유
先入何時辰巳午未 선입하시진사오미
未入何時此運之後 말입하시차운지후
未入者死 말입자사
吉運十勝何地 길운십승何地
南朝鮮四面如是 남조선사면여시
如是三年工夫 여시삼년공부
無文道通 무문도통

하나님이 세상에 나오실 때는 적화사용(赤火蛇龍)의 양목(兩木)의 운으로 오느니라. 적화사용은 병진정사, 임(林)은 양목이며 손진계통이다. 하나님어 중천운에 오실 때는 5도 72궁 정도령 병진정사에 오는데 5도 72궁 정도령을 포함하여 세 분이 이어서 나오게 된다(삼신일체, 삼위일체, 삼인동행). 지리상의 십처 십승은 길지가 아니다. 더할 나위 없이 길한 곳인 궁궁촌은 마귀를 이기신 이긴자가 출입하니 수많은 사람이 따르리라. 지혜 있는 자는 세상일을 생각하지 마라. 중입자는 살리라. 중입은 어느 때가? 오미신유(午未申



酉)이다. 선입은 어느 때인가? 진사오미(辰巳午未)이다. 말입은 어느 때인가? 중입 이후에 오는 말입자는 죽으리라.

길운이 가득한 십승지는 어디인가? 남조선에 계시는 전(田)자 속의 주인공이라. 이와 같이 삼 년간 십승 공부를 하면 무문도통(無文道通) 즉 글을 몰라도 도통 하리라.

肇乙矢口氣和慈慈 조을시구기화자자
二七龍蛇是真인 이칠용사사진인
三八木人十五眞主 삼팔목인십오진주
兩人相對馬頭角 양인상대마두각
築字之人變化君 영자지인변하군
乘柿之人弓乙鄭 승시지인궁을정
前路松松不遠開 전로송송불원개
儒佛柿人是何人 유불시인사하인
東西末世豫言書 동서말세예언서

神人豫言世不覺 신인에언세불각

좋은 시구 지화자자 병정 정사에 오신 진인(6도 72궁)은 동방갑을의 목인(갑나무 사람/동방의 의인)이요 그 삼팔목인과 15진주(6도 81궁 정도령) 두 사람이 마주 보고 있도다. 15진주이신 6도 81궁 속에는 5도 72궁과 여인으로 오신 분의 신이 합하여 삼위일체 하나님으로서 거하고 계시다. 천마(天馬=궁궁)가 땅으로 내려오셔서 도를 지우(地牛=을을)에게 전하니 우성(牛性) 즉 하나님어 좌정하신 분이요 영광의 빛으로 오시는 분으로 성령(=하나님=빛)으로 거듭난 분이요 갑(갑)나무의 사람이니 곧 인류가 고대하던 정도령 구세주(궁궁을을)이다. 마두각은 마두우각(馬頭牛角)이며 우(牛)자를 말한다. 그 앞길은 절로절로 솔솔 열리게 된다. 유교와 불

梯獨出世 시독출세
人心即天心規於十勝
인심즉천심규어십승
弓弓之間生旺勝地 궁궁지간생왕승지

저 십승은 십승이 나오지 않으므로 아무 소용이 없느니라. 다만 궁궁을을 사이에 있느니라.

세상 사람들이여! 낙반사유 속의 십자를 찾아 깨달아야 하느니라. 입 구(口)자 네 개로 된 전(田)자를 이용할 때 전(田)자의 사면을 몰리치면 십(十)자가 나오나니 그 십자를 찾기가 심히 어렵고 어려운 궁궁지이나라.

悲哉悲運何日時 비재비운하일시
靑槐滿庭之月 청괴만정지월
白楊無芽之日 백양무아지일
此時變運之世 차시변운지세

교에서 말하는 갑나무의 사람 정도령 기록은 어떤 사람인가? 동서의 말세 예언서가 말하는 신인이지만 세상 사람들은 깨닫지 못하는구나.

此運之論 차운지론
十處十勝無用 십처십승무용
十勝不現出 십승불현출
但在弓弓乙乙間
단재궁궁을을간
世人壽覺落盤四乳
세인심각낙반사유
四口之田利用時
사구지전이용시
田退四面十字出 전퇴사면십자출
甚難甚難弓弓地 심난심난궁궁지

이 말운에 대해 논하자면 지리상의 십

梯獨出世 시독출세
人心即天心規於十勝
인심즉천심규어십승
弓弓之間生旺勝地 궁궁지간생왕승지

슬프도다! 비운(悲運)은 어느 날 어느 때인가? 푸른 회화나무가 뜰에 가득한 달이요. 흰 버드나무가 씩이 없는 날이다. 이 때는 천지개벽의 급변하는 운세인지라도 직 마귀를 이기신 삼위일체 구세주 하나님을 모신 갑(갑)나무(6도 81궁 정도령) 한 분이 홀로 출세하시나니라. 인심이 천심이니 오직 십승을 찾아 도를 뒤야 하느니라. 궁궁의 사이에 영성의 기운이 왕성한 십승지가 있다.*

박명하 / 고서연구가
myunghpark23@naver.com 010-3912-5953

당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다
전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

승리신문	1990.3.3 등록번호 다 - 0029
발행인 겸 편집인 김중만	
본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람움이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.	
경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 14679	광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202
홈페이지 www.victor.or.kr	
본지는 신문윤리규정 및 그 실천요강을 준수합니다.	